

「3.11」から5年 「息の長い支援」は神戸の山間から

阪神淡路大震災で被災された方を、神戸市内の復興住宅にお訪ねし、震災のことや今お困りのことなどの「お話し伺い」をする傾聴ボランティアです。

1回だけでも、初めてでも、お気軽に、一緒くたさればうれしいです。

3月12日(土)・13日(日)、午後2時～5時

集合場所・時間：垂水東口、いかなごのモニュメント前、午後1時20分

JR・山陽各線垂水駅東口(大阪・神戸寄り)山側すぐ、レバンテ垂水前の広場です。

路線バスで移動、垂水区内の復興住宅をお訪ねします。



3月26日(土)・27日(日)、午後2時～5時

集合場所・時間：神戸市営地下鉄、名谷(みょうだに)駅、午後1時45分

(改札前の時計の下でお待ちしています)。須磨区内の復興住宅をお訪ねします。



050-6863-1039 [電話] kobevolunteer@aol.jp [メール]

ご参加の際は、電話、メール、メッセージにて、予めご連絡くだされば幸いです。



神戸・週末ボランティアは、2013年、新たな活動主体

「**神戸・週末ボランティア 新生**」のもと、

リフレッシュ・スタートしました。

不定期ながらも、毎回ニーズや課題に即したテーマを設定する
新たな形態で、阪神淡路大震災の被災者に寄り添い、
共に歩んでいきたいと思ひます。



新聞で紹介されています！ 産経新聞 神戸版 2010.11.28
若者にも被災者支援の輪 神戸市民グループ「週末ボランティア」

This is 神戸・週末ボランティア <http://kobevolunteer.web.fc2.com/> (純正サイト Yahoo! JAPAN登録)
[Facebook](#)・[Mixi](#)・[Google+](#)・[Twitter](#) - [welove_kobe](#)、もよろしく！

神戸・週末ボランティア 新生は、宗教や政党など全く関係のない民間のボランティアです。
寄付や署名の要請、投票依頼、販売行為などは一切行いませんので、ご安心ください。

おかげさまで 仮設・復興住宅訪問通算600回！

神戸・週末ボランティア 新生が2014年3月30日に行った復興住宅訪問活動は、「週末ボランティア」(旧)が、阪神淡路大震災後、取り組みを始めて以来、通算600回目となりました。

阪神大震災から21年が過ぎた中、東日本大震災からも5年になろうとしています。

いずれの災害でも、被災時に永く暮らした地を離れて、避難生活を送り、そのまま戻ることができないままとなった被災者の方々を忘れることはできません。



かつて「週末ボランティア」(旧)でも、神戸市郊外の仮設・復興住宅を訪ねて「お話し伺い」をしていました。物質的な支援を伴わず、もと居た地を離れて難儀されている被災者の方々に寄り添うことが、活動の原点でした。

また、阪神淡路大震災を機に、広く知られるようになった「こころのケア」ですが、それに求められる方法やあるべき姿勢も、その後に発生した災害や事件の中で、変わってきました。こうした中、人々や地域における、心の風通しをよくすることは、なおいっそう重要になっているでしょう。

そして、東日本大震災の後、早くから「息の長い支援」が求められてきました。「3.11」から5年が経とうとする中、犠牲になられた方々、今なお各地で難儀し続ける方々に、思いを致しつつ、当ボランティアの活動の原点ともいえるべき、神戸市郊外の復興住宅に、これまでのさまざまな教訓を活かしつつ、新たな気持ちで、伺うことにしました。



1回だけでも、初めてでも、お久しぶりでも、お気軽に、ご一緒くださればうれしいです。

☆新聞で紹介されています☆
産経新聞：「時間重ねて見える問題も」復興住宅訪問600回
に 神戸のボランティア団体
神戸新聞：住民の悩み聞き続け
神戸・週末ボランティア
新生 「将来の一助に」 復興
住宅訪問、仲間募る
(2014.3.23神戸版)

産経新聞 平成26年(2014年)3月23日 日曜日

復興住宅訪問600回へ

神戸のボランティア団体 HPで問題共有

阪神大震災の発生から20年、震災後に発生した前身団体「神戸・週末ボランティア」(旧)と、ボランティア団体「神戸・週末ボランティア新生」が22日、神戸市垂水区の市営住宅「ベルデ名谷」を訪れ、入居する高齢者らから話を聞いて歩いた。震災で問題の共有化を促す予定だ。

「神戸・週末ボランティア新生」は週末に不定期に復興住宅を訪ね歩き、ホームページ上で情報を公開して問題の共有化を図っている。東日本大震災の発生後は東北の復興に関心が移

復興住宅に住む女性から話を聞くボランティア団体主宰の原英樹さん(右)と神戸市垂水区

神戸新聞 (第3種郵便物認可)

復興住宅訪問、仲間募る

住民の悩み聞き続け

神戸・週末ボランティア新生 「将来の一助に」

ボランティアグループ「神戸・週末ボランティア新生」が、阪神・淡路大震災の災害公営復興住宅を訪ね、住民の抱える悩みや暮らしについて、募っている。(上田勇起)

グループは、東京都豊田市の元高校教諭原英樹さん(48)の復興住宅で聞き取りをし、府田中出身で、震災後、仮設住宅や復興住宅を転々とした神戸の市民団体「週末ボランティア」に参加。昨年1月に「新生」を立ち上げた。これまで70代の女性は「表れがない部屋もあり、隣の部屋に誰が住んでいるかも分からない」と不安を打ち明けた。須磨区の自宅が全壊した別の男性(71)は病気で車いす生活。「ベッドに座るのもつらい」と語った。

フェイスブックで知り、活動に参加した垂水区の森聖幸代さん(40)は「高齢になってから新しい人間関係を築くのは難しい」と「ミニ志愿者的な課題を指摘。原さんは「復興住宅が抱える問題は△△ではない。将来の災害に備える一助にもしたい」と話している。今月23、29、30日にも行っ。ホームページは「神戸・週末ボランティア新生」で検索

ベルデ名谷で住民から悩みを聞く原英樹さん(右)と垂水区名谷町

る中、阪神大震災当時の動不安という相談を受けた労世代が引退を迎え、経済的、身体的に苦しみたり健康を損なったりして問題が山積しているという。

メンバーはこの日、集合住宅内を次々と訪問し、入居者の女性(70)から「隣に誰が住んでいるかわからない」と話した。

同団体の主宰、原英樹さん(48)は「震災から時間を重ねることで見える問題もある。これからの活動を続ける」と話した。